

用賀地区防災計画

【平成29年作成】

用賀地区

【用賀地区防災塾参加者団体】

玉川町会	瀬田町会
用賀南町会	用賀町会
上用賀町会	馬事公苑前ハイム管理組合
用賀商店街振興組合	瀬田中学校 P T A
用賀小学校 P T A	二子玉川小学校 P T A
桜町小学校 P T A	瀬田小学校 P T A
駒澤大学高校	地区青少年委員会
民生児童委員協議会	玉川消防署
玉川消防団第 5 分団	玉川消防団第 7 分団
玉川消防団第 1 1 分団	

目 次

趣旨	1
I 用賀地区の特性	2
1. 自然特性	2
2. 社会特性	5
3. 被害想定	10
4. 地区防災の担い手	22
II 各団体の防災活動～現在の取り組み状況～	26
1. 集計表	26
III 地区における課題と今後の取り組み	30
1. 用賀地区における課題	30
2. 今後の取り組み	32
IV 資料編	35

本 編

趣旨

我が国は、これまで多くの自然災害に見舞われてきたが、近年は、首都直下地震、南海トラフ地震等の大規模地震の発生が懸念される中、安心・安全に関する地域住民の関心が高まってきている。

このような状況を踏まえ、「災害対策基本法等の一部を改正する法律」（平成25年法律第54号）では、「市町村の住民から地区防災計画を提案できることとすること」が明記され、区では、平成29年1月修正（予定）の『世田谷区地域防災計画』に反映させることを想定して、地区防災計画の策定を進めることとなった。

地区防災計画の策定に向けては、東京都及び世田谷区の地域防災計画、被害想定等に基づき、地区の被害想定を作成し、地区住民に説明しながら進めていくことが不可欠であり、住民から出された意見等については、適宜世田谷区地域防災計画の記載に反映させる作業も必須となる。

本計画は、住民の意見をもとに、住民自治の強化と地区防災力の向上のため、作成されるものである。

I 用賀地区の特性

1. 自然特性

1.1 地区の位置

用賀地区は、北は世田谷通りから南は多摩川に至る、区内で最も大きな地区である。多摩川をはさんで、神奈川県川崎市に隣接している。

「国分寺崖線」と呼ばれる傾斜地が地区を横断し、崖線の上側は、早くから耕地整理が進み、現在は住宅街となっている。下側は多摩川や野川、丸子川など多くの河川が流れ、区民の貴重な水辺環境として親しまれてきた。また、国分寺崖線は区内で最も自然環境が残る部分であり、「みどりの生命線」と位置づけられている。



図－1：玉川地域の各地区

1.2 地区の面積・エリア

用賀地区の面積及びエリアは、以下、表のとおりになっている。エリアは、図-2に対応している。

出張所エリア（町名）	上用賀1～6丁目、用賀1～4丁目、玉川台1～2丁目、瀬田1～5丁目、玉川1～4丁目
面積	4.521平方キロメートル

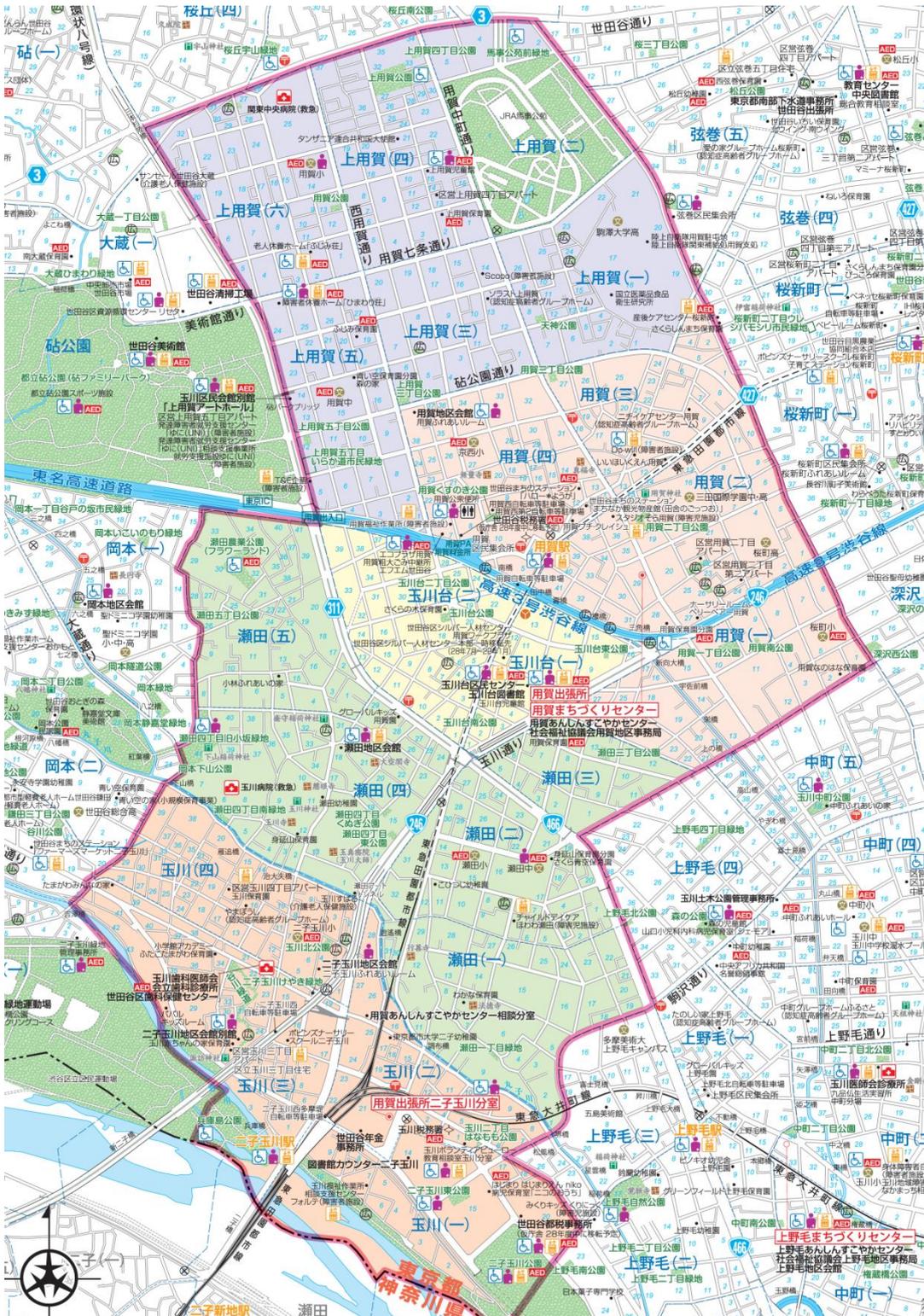


図-2：用賀地区のエリア

1.3 標高・急傾斜地

用賀地区は、図-3のように北と南で標高差が大きく、北側は、世田谷区全体でも標高が高い方であるが、南側は5メートル未満と低いことがわかる。東急大井町沿線で急傾斜地も存在しておるのが分かる。20ページの「急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布」に詳細な分布を出している。

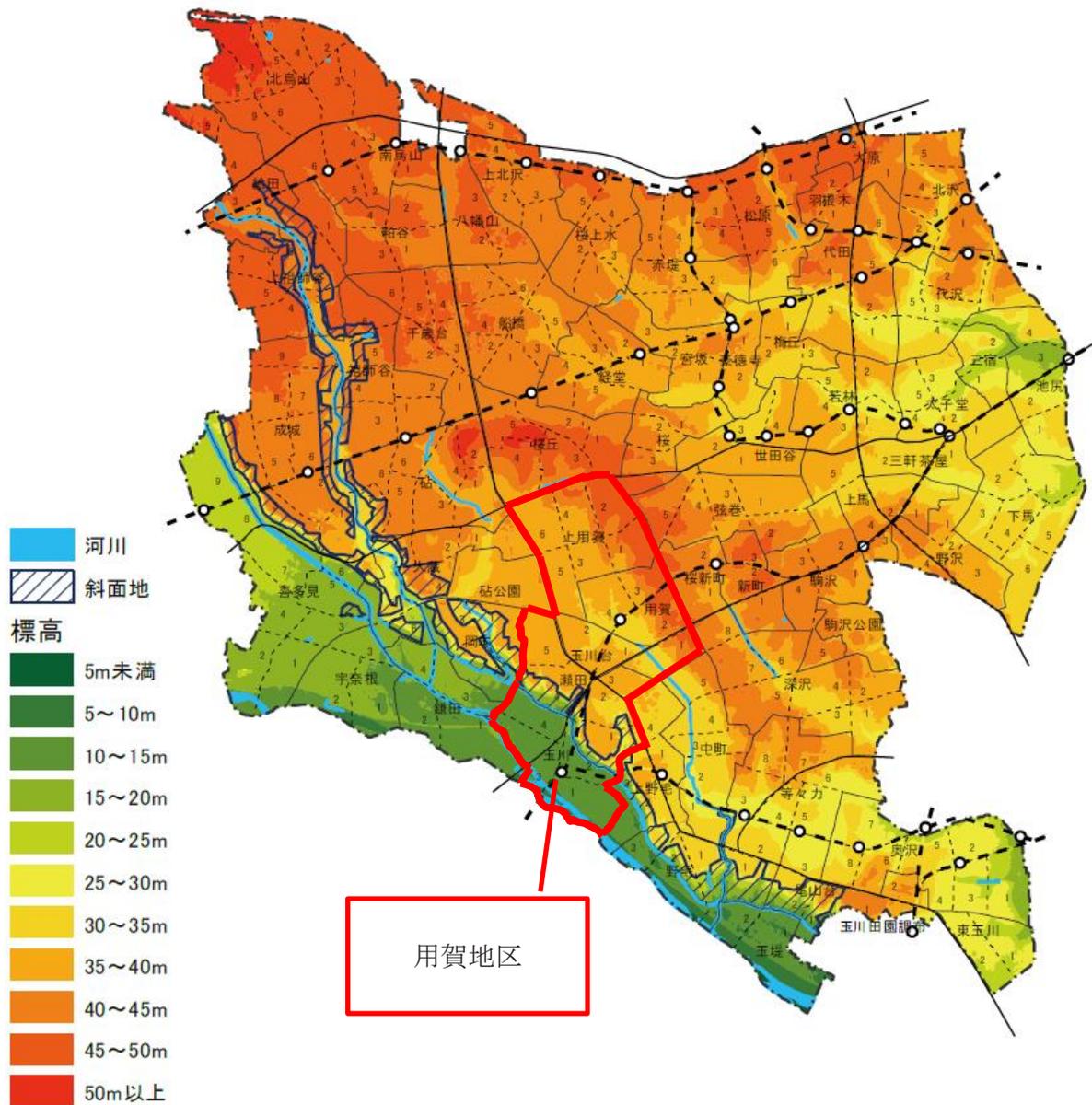


図-3：世田谷区の標高・傾斜地・河川
(引用：世田谷区のあらまし)

2. 社会特性

江戸時代より地区を貫くように大山道が東海道の脇街道として整備され、その後、大山道をなぞるように玉川通り（国道246号線）が開通し、二子玉川駅周辺は、早くから商業拠点として発展してきた。

地区内には区立小学校が5校、区立中学校が2校がある。「世田谷9年教育」の地域グループとして、「ようがの学び舎（用賀中、用賀小、京西小）」、「多摩川の学び舎（瀬田中、瀬田小、二子玉川小、桜町小）」を形成し、地域の子どもたちを大切に育てていくために、特色ある取り組みをしている。また、インターナショナルスクールが複数あり、日常的に外国人の往来が多い。

2.1 人口・世帯数

用賀地区、玉川地域、世田谷区の人口は、以下、表のとおり。

（平成28年4月1日現在）

人口（用賀地区） （男、女、18歳未満、65歳以上）	用賀地区＝62,749人（7.1%）
	男：29,496人（100%） （18歳未満男：5,224人（17.7%）） （65歳以上男：4,924人（16.7%））
人口（玉川地域） （男、女、18歳未満、65歳以上）	女：33,253人（100%） （18歳未満女：4,798人（14.4%）） （65歳以上女：6,795人（20.4%））
	玉川地域＝219,491人（24.7%） 男：102,814人（100%） （18歳未満男：17,037人（16.6%）） （65歳以上男：18,567人（18.1%））
人口（世田谷区全体） （男、女、18歳未満、65歳以上）	女：116,677人（100%） （18歳未満女：16,111人（13.8%）） （65歳以上女：25,305人（21.7%））
	区全域＝887,994人（100%） 男：422,316人（100%） （18歳未満男：63,971人（15.1%）） （65歳以上男：74,242人（17.6%））
世帯数（用賀地区）	女：465,678人（100%） （18歳未満女：60,040人（12.9%）） （65歳以上女：104,184人（22.4%））
	31,069世帯
	区全域：464,939世帯　玉川地域：108,571世帯

2.2 町会・自治会、商店街

用賀地区の町会・自治会及び、商店街の詳細については、以下、表のとおり。

町会・自治会	6 団体（玉川町会、瀬田町会、用賀町会、用賀南町会、上用賀町会、馬事公苑前ハイム管理組合）
区全体	1 9 7 団体
商店街	4 団体（玉川商店街振興組合、二子玉川商店街振興組合、用賀商店街振興組合、瀬田商店会）
区全体	1 3 4 団体

※区全体の団体数については、平成 2 8 年 8 月 1 日現在のもの

2.3 公共施設

用賀地区の公共施設の詳細については、以下、表のとおり。

項目	施設名
出張所・まちづくりセンター	用賀出張所・用賀まちづくりセンター（用賀 2-29）、用賀出張所二子玉川分室（玉川 2-21）
消防署	玉川消防署用賀消防出張所（玉川台 1-13）
国税・都税	玉川税務署（玉川 2-1）
保険・年金	世田谷年金事務所（玉川 2-21）
情報・通信	エフエム世田谷〔リクエスト専門〕（用賀 4-7）
清掃リサイクル	エコプラザ用賀（用賀 4-7）
保健・医療	世田谷区歯科保健センター（玉川 3-21）
駐輪場（区立）	用賀駐輪場（用賀 4-5）、用賀西駐輪場（用賀 4-9）、用賀西第 2 駐輪場（用賀 4-10）、二子玉川西駐輪場（玉川 3-15）、二子玉川西多摩堤駐輪場（玉川 1-12）
駐輪場（民営）	世田谷ビジネススクエア駐輪場（用賀 4-10）、用賀 2 丁目駐輪場（用賀 2-33）、東急二子玉川駅有料駐輪場（玉川 2-24）、二子玉川ライズ第 1 駐輪場（玉川 2-22）、二子玉川ライズ第 2 駐輪場（玉川 2-21）二子玉川ライズ第 3 駐輪場（玉川 2-2）、二子玉川ライズ第 4・5 駐輪場（玉川 1-14）
区民会館	玉川区民会館別館「上用賀アートホール」（上用賀 5-14）
区民センター	玉川台区民センター（玉川台 1-6）
地区会館	用賀地区会館（用賀 4-38）、二子玉川地区会館（玉川 4-4）、二子玉川地区会館別館（玉川 3-27）、瀬田地区会館（瀬田 4-18）
区民集会所	用賀区民集会所（用賀 4-10）
あんしんすこやかセンター	用賀あんしんすこやかセンター（用賀 2-29）、用賀あんしんすこやかセンター相談分室（玉川 2-26）
介護老人保健施設	玉川すばる（瀬田 4-1）

項目	施設名
認知症高齢者グループホーム	ソラスト上用賀（上用賀 3-13）、ニチイケアセンター用賀（用賀 3-9）、やまぼうし（玉川 4-13）
障害のある方の施設	障害者休養ホームひまわり荘（上用賀 5-24-18）
就労移行支援施設（民立）	T&E企画（上用賀 5-5）、D o - w i l l（用賀 3-11）、
就労移行支援・就労継続支援B型（区立）	玉川福祉作業所（玉川 1-7）
就労移行支援・就労継続支援B型（民立）	ゆに（UNI）（上用賀 5-14）
就労継続支援B型（民立）	用賀福祉作業所（用賀 4-7）
短期入所・日中ショートステイ（民立）	ニコこどもクリニックぼれぼれ（玉川 1-15）
障害のある子どもの通所施設	チャイルドデイケアほわわ瀬田（瀬田 2-6）
ボランティアビューロー	玉川ボランティアビューロー（玉川 2-1）
保育園（区立）	上用賀保育園（上用賀 4-2）、玉川保育園（玉川 4-16）、ふじみ保育園（上用賀 5-19）、用賀保育園（用賀 2-29）、用賀保育園分園（用賀 2-28）
保育園（私立）	青い空保育園分園・森の家（上用賀 5-15）、さくらの木保育園（玉川台 2-18）、たまがわ・みんなの家（玉川 3-39）、身延山保育園（瀬田 4-12）、身延山保育園分園・さくら青空保育園（瀬田 2-17）、用賀なのはな保育園（用賀 1-2）、わかな保育園（瀬田 1-7）
保育室	玉川赤ちゃんの家保育園（玉川 3-27）
認証保育所	いいほいくえん用賀（玉川 3-27）、グローバルキッズ用賀園（瀬田 4-28）、小学館アカデミーふたごたまがわ保育園（玉川 3-34）、ナーサリールーム・ベリーベアー用賀（用賀 2-27）、はじまりはじまりえん n i k o（玉川 1-15）、パパールキッズルーム（玉川 3-43）、ポピンズナーサリースクール二子玉川（玉川 3-17）、用賀プチ・クレイシュ（用賀 4-3）
病時・病後時保育室	ニコこどもクリニック病児保育室ニコのおうち（玉川 1-15）
幼稚園（私立）	こひつじ幼稚園（瀬田 2-11）、瀬田幼稚園（瀬田 4-11）、東京都市大学二子幼稚園（玉川 2-17）
小学校（区立）	用賀小学校（上用賀 6-14）、二子玉川小学校（玉川 4-6）、京西小学校（用賀 4-27）、桜町小学校（用賀 1-5）、瀬田小学校（瀬田 2-15）
中学校（区立）	用賀中学校（上用賀 5-15）、瀬田中学校（瀬田 2-17）
中学校（私立）	三田国際学園中学校（用賀 2-16）
インターナショナルスクール	清泉インターナショナルスクール（用賀 1-12）、セント・メリーズ・インターナショナルスクール（瀬田 1-6）
子ども・子育て支援	ひまわり（玉川 4-16）

項目	施設名
子ども関係の相談機関	教育相談室玉川分室（玉川 2-1）
児童館	玉川台児童館（玉川台 1-6）、上用賀児童館（上用賀 4-14）
新BOP	京西小新 BOP（用賀 4-27）、桜町小新 BOP（用賀 1-5）、瀬田小新 BOP（瀬田 2-15）、二子玉川小新 BOP（玉川 4-6）、用賀小新 BOP（上用賀 6-14）
都立高校	桜町高校（用賀 2-4）
私立高校	駒澤大学高校（上用賀 1-17）、三田国際学園高校（用賀 2-16）
公衆浴場	栄湯（用賀 4-31）、藤の湯（玉川台 2-1）
図書館	玉川台図書館（玉川台 1-6）、図書館カウンター二子玉川（玉川 1-14）
公園	兵庫島公園（玉川 3-2）、二子玉川公園（玉川 1-16）、上用賀公園（上用賀 4-32）
農園	瀬田農業公園（フラワーランド）（瀬田 5-30）

2.4 一時集合所一覧

用賀地区の一時集合所の詳細については、以下、表のとおり。

町会・自治会	施設名	所在地
玉川町会	二子玉川東公園	玉川 1 - 1 5
玉川町会	二子玉川公園	玉川 1 - 1 6 - 1
玉川町会	諏訪神社	玉川 3 - 2 6
玉川町会	二子玉川小学校	玉川 4 - 6 - 1
瀬田町会	瀬田中学校	瀬田 2 - 1 7 - 1
瀬田町会	天理教玉瀬分教会	瀬田 3 - 9 - 1 3
瀬田町会	瀬田三丁目公園	瀬田 3 - 1 3 - 2
瀬田町会	瀬田玉川神社	瀬田 4 - 1 1 - 3 1
瀬田町会	瀬田フラワーランド	瀬田 5 - 3 0 - 1
瀬田町会	京セラ（株）東京用賀事業所 駐車場	玉川台 2 - 1 4 - 9
瀬田町会	聖アントニオ神学校	瀬田 4 - 1 6
瀬田町会	瀬田小学校	瀬田 2 - 1 5 - 1
用賀南町会	用賀神社境内	用賀 2 - 1 6
用賀南町会	桜町小学校	用賀 1 - 5 - 1
用賀南町会	佐川急便 世田谷用賀営業所	用賀 1 - 1 5 - 2 3
用賀町会	京西小学校	用賀 4 - 2 7 - 1
用賀町会	玉川台公園	玉川台 2 - 1 8 - 2 0
用賀町会	郵政省宿舎前庭	用賀 3 - 6 - 9
上用賀町会	用賀小学校	上用賀 6 - 1 4 - 1
上用賀町会	用賀中学校	上用賀 5 - 1 5 - 1

町会・自治会	施設名	所在地
上用賀町会	上用賀テニスクラブ	上用賀 3-9-2 1
上用賀町会	天神公園	上用賀 1-8-1

3. 被害想定

3.1 使用データ

本被害想定 of 分布図を作成するに当たっては、東京都の首都直下地震の想定データ、内閣府の地震防災マップ建物被害のデータ及び世田谷区防災マップのデータを使用した。

以下の2項目については、内閣府のデータを使用。

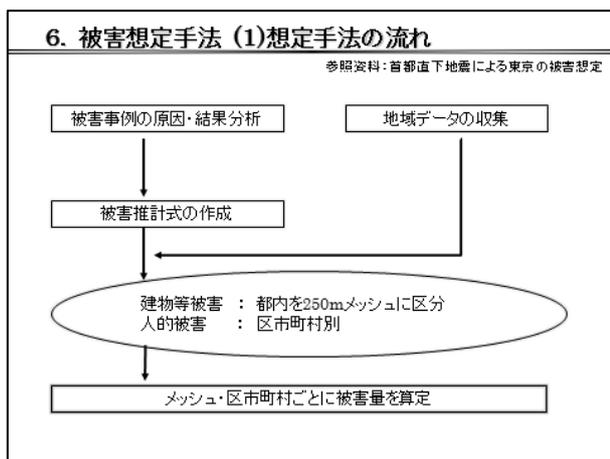
- (2)建物全壊棟数率の分布
- (7)建物を原因とする死者数

以下の5項目については、東京都のデータを使用。

- (1)震度分布
- (3)焼失棟数（250mメッシュ）冬18時、風速8m/s
- (4)焼失棟数（250mメッシュ）冬5時、風速8m/s
- (5)液状化危険度分布
- (6)急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布

3.2 被害想定手法

東京都の首都直下地震の想定は、大きく分けて4つある。荒川河口付近を震源とする「東京湾北部地震」、「多摩直下地震」、「元禄型関東地震」、「立川断層帯地震」である。今回は、世田谷区の地域防災計画がベースとしている、被害想定 of 最も大きな「東京湾北部地震」で被害想定 of 分布図を作成した。



- ・被害想定 of 数値は、世田谷区 of 想定ではあるが、管内を現地調査し、くまなく回って積み上げた想定ではない。あくまで他地域の過去の災害事例から推定式を作り、間接的に求めたものである。
- ・世田谷区 of 地域データ（建築年数）を収集し、作った推定式に当てはめている。
- ・地域データとは、固定資産管理台帳の建築年数や木造・非木造ごとに出したものである。

- ・家屋の建築年数、特に建築基準が変わった前後での比較をし、「旧」・「中」・「新」 of データ区分になっている。古ければ倒れやすいという単純な想定であり、よく言われている昭和57年の耐震基準を満たしているかどうかということである。
- ・NHK of 記者の方から、阪神淡路大震災の後、報道機関が神戸の調査結果のうち、十分に報道で伝えきれなかったことがあったと聞いている。それは、「昭和57年の耐震基準を満

たしていた建物は90%大丈夫だった」という調査結果を、教訓として十分に発信できなかったということであった。

- ・推定式に基づいた被害想定を250メートルメッシュで区切り、各地区、玉川地域とメッシュ単位に積み上げて、地区・地域の被害想定を設定している。
- ・被害想定の流れは、想定条件（季節等の条件）→震度→地盤の揺れやすさ→建物被害・火災被害・ライフライン（社会基盤）の被害→人的被害の順である。
- ・構造別揺れの被害想定の特徴は、データのばらつきが大きい築年数と震災時の倒壊被害の関係グラフから推定線を求め、そこに固定資産台帳のデータを当てはめている。そのため、粗い結果となっている。
- ・液状化も、築年数から液状化の危険性を出している。ここでPLとなっているのは、揺れやすさの指標である。震源から地表までの地層を区切り、地下水位、地盤の粒度の関係から出されている。0～5は、危険度が低い液状化の可能性がある。5～15は、やや高いという指標を示している。

3.3 前提条件

被害想定は、時間帯によって人々の滞留特性は大きく異なるため、地震の発生時刻が変わると人的被害の発生する様相も変化する。

また、時間帯や季節によって火気器具等の使用状況が異なるため、火災の出火件数も変化すると思われる。このため、想定される被害が異なる3種類の特徴的なシーン（季節・時刻・風速）が想定されている。

1 想定

項目	内容			
種類	東京都湾北部地震	多摩直下地震 (プレート境界多摩地震)	元禄型関東地震	立川断層帯地震
震源	東京湾北部	東京都多摩地域	神奈川県西部	東京都多摩地域
規模	マグニチュード(以下「M」と表記する) 7.3		M8.2	M7.4
震源の深さ	約20km~35km		約0km~30km	約2km~20km

2 気象条件等

季節・時刻・風速	想定される被害
冬の朝5時 風速 4m/秒 8m/秒	○兵庫県南部地震と同じ発生時間 ○多くの人々が自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による圧死者が発生する危険性が高い。 ○オフィスや繁華街の屋内外滞留者や、鉄道・道路利用者は少ない。
冬の昼12時 風速	○オフィス、繁華街、映画館、テーマパーク等に多数の滞留者が集中しており、店舗等の倒壊、落下物等による被害拡大の危険性が高い。

季節・時刻・風速	想定される被害
4 m/秒 8 m/秒	○住宅内滞留者数は、1日の中で最も少ない。
冬の夕18時 風速 4 m/秒 8 m/秒	○火気器具利用が最も多いと考えられる時間帯で、これらを原因とする出火数が最も多くなるケース ○オフィスや繁華街周辺、ターミナル駅では、帰宅、飲食のため多数の人が滞留 ○ビル倒壊や落下物等により被災する危険性が高い。 ○鉄道、道路もほぼラッシュ時に近い状況で人的被害や交通機能支障による影響拡大の危険性が高い。

参考：「東京都防災 HP」 <http://www.bousai.metro.tokyo.jp/taisaku/1000902>

3.4 被害想定一覧

用賀地区の被害想定については、次ページのとおりである。

● 首都直下地震の被害想定

想定項目		首都直下(平成24年想定)			
震源・規模		東京湾北部 M7.3			
条件等		冬の夕方18時/冬の朝5時			
対象範囲		8m/秒			
		東京都全体	世田谷区	玉川地域	用賀地区
震度	6強地域面積比率	24.4%	66.8%	92.6%	87.8%
	6弱地域面積比率	29.0%	33.2%	7.4%	12.2%
人的被害	死者	9,641人	655人	94人	20人
	建物被害・屋内収容物	7,649人	440人		
	急傾斜地崩壊	1,737人	229人	88人	19人
	原因	6,927人	362人		
	別	76人	3人		
	内	74人	4人		
	記	4,081人	411人	6人	1人
		540人	47人		
		103人	26人		
		103人	28人		
建物被害	負傷者(うち重傷者)	147,611人 (21,893人)	7,449人 (1,366人)		
	ゆれ等による全壊 火災による全焼 (全壊建物を含まない)	138,804人 (18,073人)	8,425人 (1,181人)		
ライフライン被害	電力(停電率、火災を考慮する)	116,224棟	6,074棟	2,350棟	594棟
	通信(電話の不通率)	201,249棟	22,455棟	4,492棟	293棟
その他	ガス(都市ガスの供給停止率)	20,074棟	1,772棟	369棟	29棟
	上下水道(断水率、1日目)	16.9%	19.4%		
	上下水道(管きよ被害率)	10.1%	12.7%		
	帰宅困難者数(人)	17.9%	1.2%		
その他	1日後の自宅外避難者数(うち避難所生活者数)	34.8%	30.8%		
	冬の日方18時	22.3%	24.7%		
	冬の日方5時	4,714,314人	168,047人		
エレベーター閉じ込め台数	冬の日方18時	3,385,489人	242,390人		
	冬の日方5時	(2,593,650人)	(157,553人)		
エレベーター閉じ込め台数	冬の日方18時	2,656,898人	153,833人		
	冬の日方5時	(2,505,680人)	(172,317人)		
エレベーター閉じ込め台数	冬の日方18時	7,473台	269台		
	冬の日方5時	7,008台	225台		

※端数処理:用賀地区の人的被害想定が対象

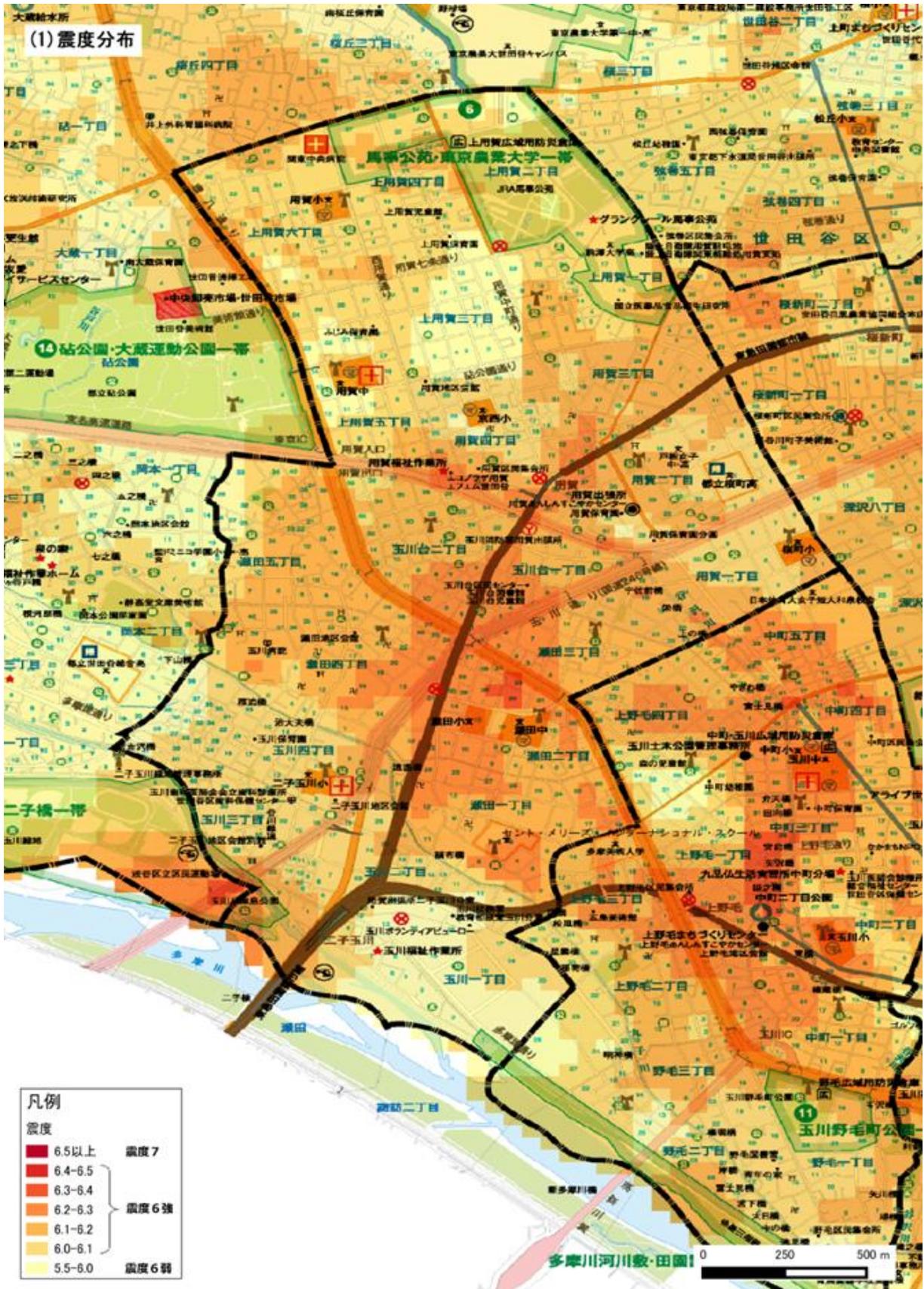
3.5 被害想定 of 分布図

- 用賀地区では、計測地震度の想定が周辺地域より大きいエリアや、火災延焼、倒壊危険が高く死者数の想定が多いエリアが地区内に分布している。これらのエリアは、「揺れによる建物倒壊」→「倒壊家屋からの出火」などにより、総合的に危険度が高い地域といえる。
例としては、玉川四丁目や用賀四丁目などがある。
- 多摩川沿いなど河川に近い地域で液状化の危険箇所が分布している。
例として、玉川一丁目、玉川三丁目などがある。
- 東急大井町線沿いで崩落危険箇所が分布している。
例として、玉川二丁目がある。
- 地区内には環状八号線や玉川通り、東急大井町線など、避難所への避難や傷病者、要配慮者の移動が必要な場合に、渋滞の発生などにより障害となるおそれのある交通施設がある。

(1) 震度分布

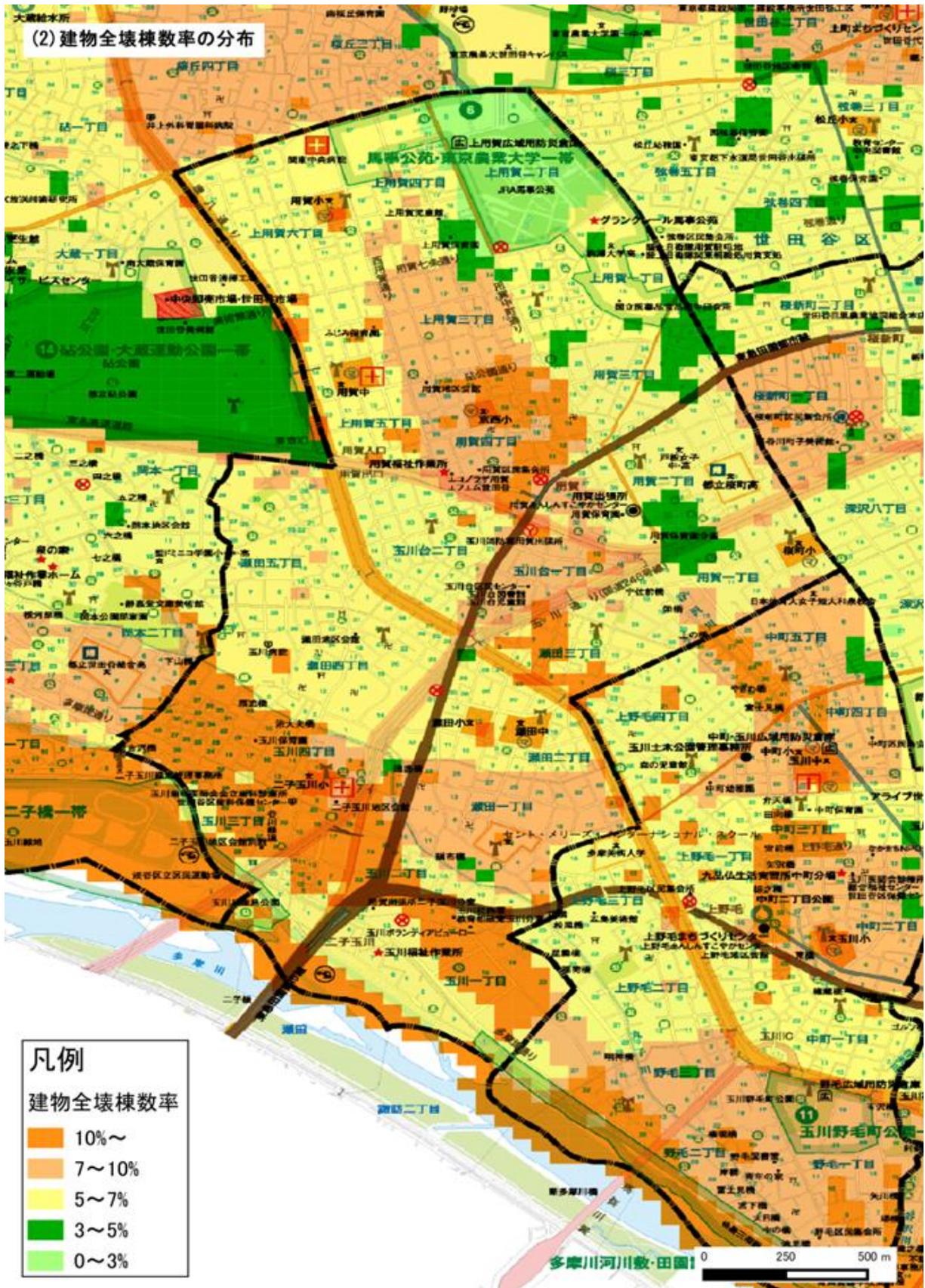
用賀地区では、玉川一丁目、上用賀三丁目では、震度6弱の分布が多いが、それ以外は、震度6強の分布が大きい。

特に瀬田交差点付近では、震度6強の中でも特に揺れの大きなエリアがある。



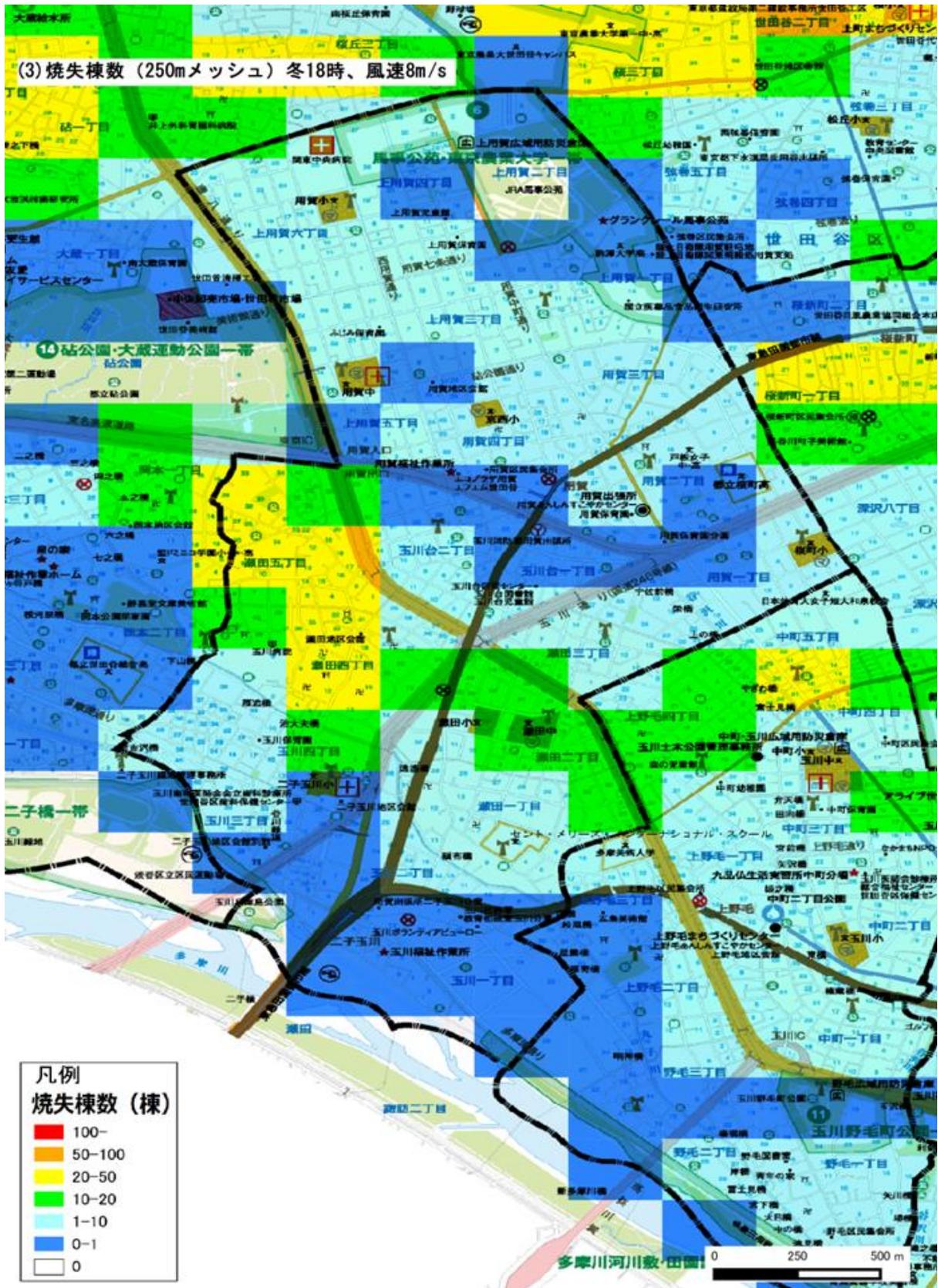
(2) 建物全壊棟数率の分布

用賀地区では、全壊棟数率「5%～7%」のエリアが広く分布しているが、用賀四丁目、上用賀三丁目や玉川一丁目～四丁目にかけては、全壊棟数率「10%～」のエリアが広く分布する。このため、京西小学校や二子玉川小学校への避難の際には、特に注意を要する。



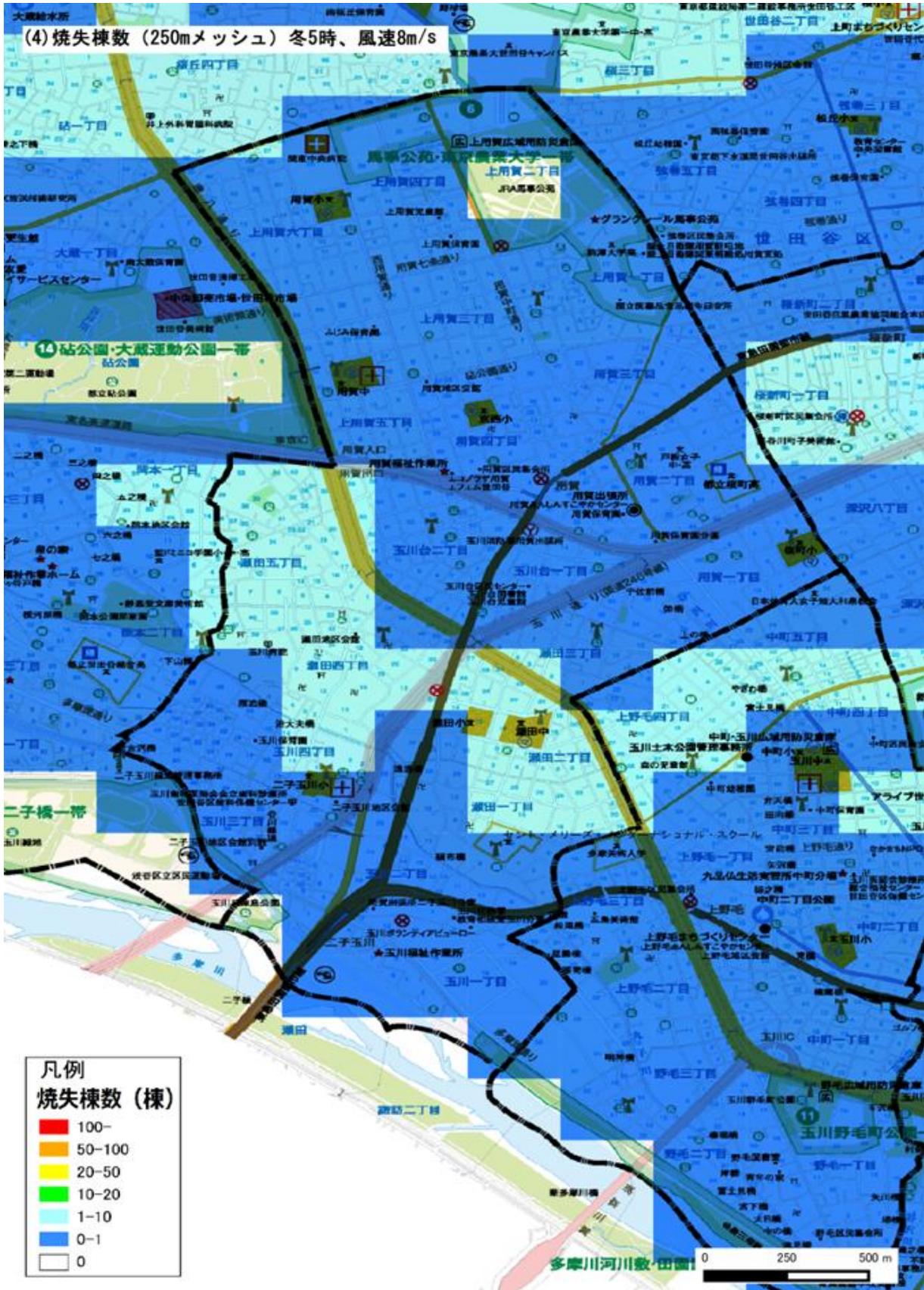
(3) 焼失棟数（250メートルメッシュ）冬18時、風速8メートル毎秒

用賀地区では、ほとんどのエリアで焼失棟数「0-1」、「1-10」棟と想定されているエリアが多いが、瀬田五丁目、瀬田四丁目で「20-50」棟の家屋が焼失する想定である。火災の危険地域は建物倒壊や震度分布の大きなエリアと一致する傾向にあり、限られた防災力をどこに集中するかという課題がある。



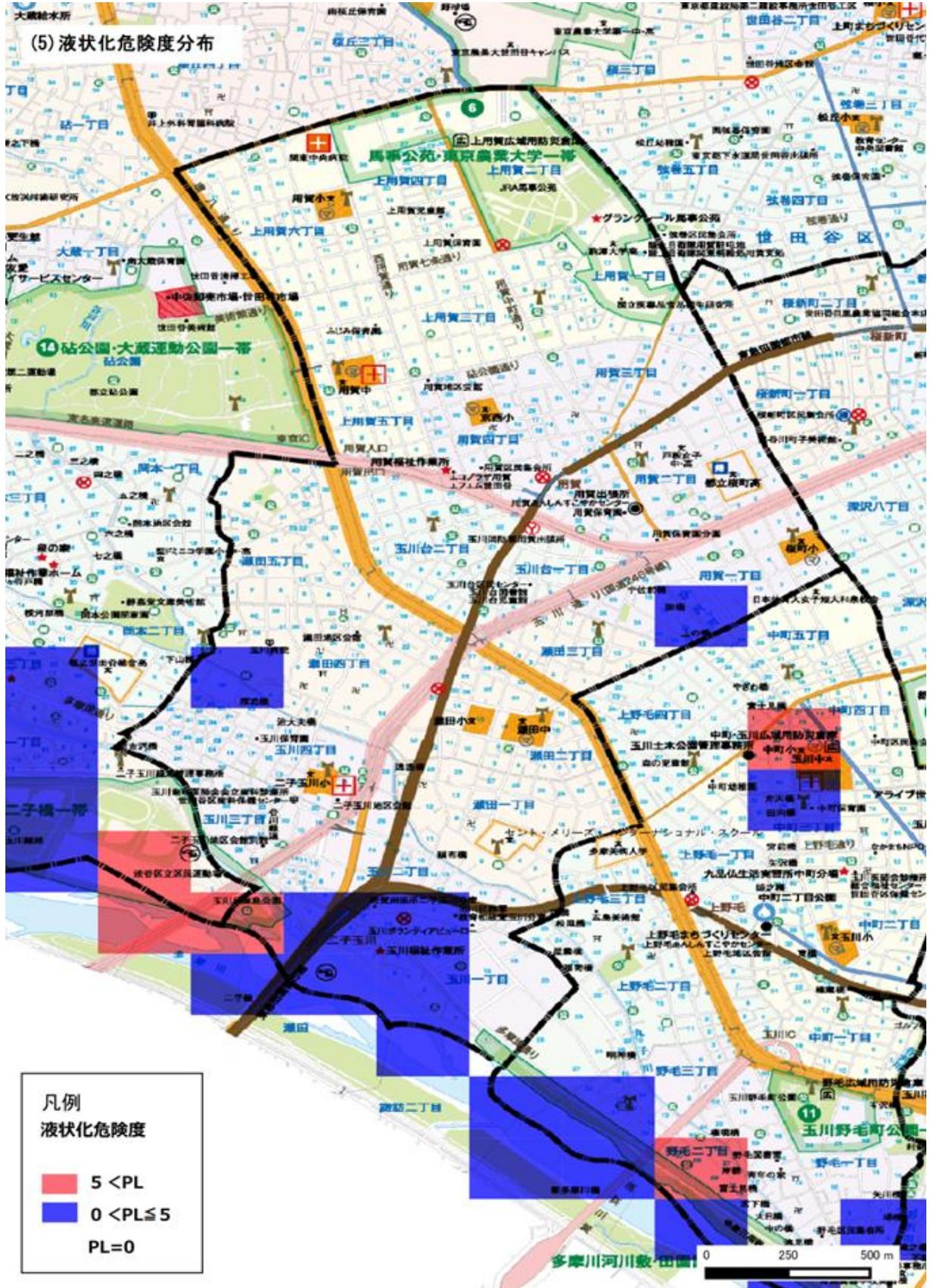
(4) 焼失棟数（250メートルメッシュ）冬5時、風速8メートル毎秒

用賀地区では、ほとんどのエリアが焼失棟数「0-1」棟の想定で、目立った被害は想定されていないが、瀬田一丁目、二丁目、四丁目、五丁目で、焼失棟数「1-10」棟のエリアが分布している。



(5) 液状化危険度分布

用賀地区では、多摩川に近い玉川一丁目、三丁目で液状化の危険度がやや高いと想定されているが、それ以外には、特に目立った危険地域は無く、液状化による危険性は少ないと想定されている。



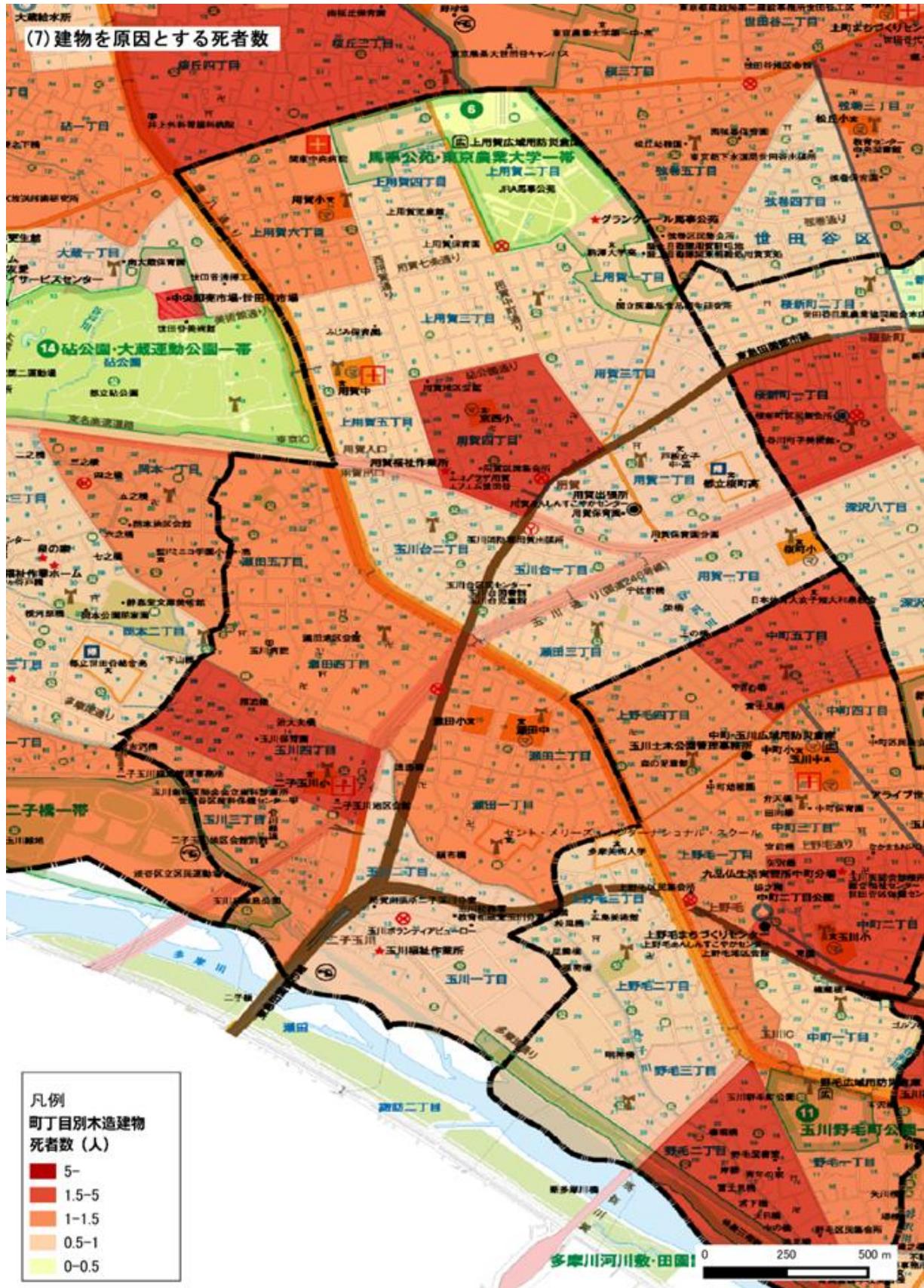
(6) 急傾斜地等の斜面崩壊危険度分布

用賀地区では、東急大井町沿線で崩壊する危険性が高い斜面が存在するが、ほとんどのエリアで斜面崩壊による危険性は少ないと想定されている。



(7) 建物を原因とする死者数

玉川四丁目や用賀四丁目は死者数が多く、特に用賀四丁目で5名以上の死者が発生すると想定されている。



4. 地区防災の担い手

4.1 町会について

用賀地区内には、世田谷区町会総連合会に加入している町会等が6つあり、それぞれが地区住民のコミュニティの醸成に向けた催しや防災対策に工夫を凝らしながら積極的に取り組んでおり、地区防災の担い手（要）として重要な役割を果たしている。

管内の町会概要は、次の通り。

町会名、会員数等	町会名、会員数等
<p>【玉川町会】 区域：玉川1～4丁目全域 会員：3, 500世帯 ※住民基本台帳登録 5, 810世帯、11, 479人</p>	<p>【用賀町会】 区域：用賀3丁目1～11・14～27番 用賀4丁目4～38番 玉川台2丁目5・6・18～30・ 34～39番（3・17・31番一部） 会員：1, 500世帯 ※住民基本台帳登録 4, 829世帯、9, 117人</p>
<p>【瀬田町会】 区域：瀬田1～5丁目 （3丁目13～15番一部） 玉川台1丁目1～4・7番 （5・6番一部） 玉川台2丁目1・2・4・7～ 16・32・33番 （3・17・31番一部） 上野毛4丁目6～8・22～ 24・38・39番（5番一部） 会員：2, 600世帯 ※住民基本台帳登録 8, 151世帯、17, 281人</p>	<p>【上用賀町会】 区域：上用賀1丁目 上用賀3～6丁目 会員：2, 900世帯 ※住民基本台帳登録 6, 595世帯、14, 038人</p>
<p>【用賀南町会】 区域：用賀1・2丁目全域 用賀3丁目12・13番 用賀4丁目1～3番 玉川台1丁目8～16番 （5・6番一部） 瀬田3丁目（13～15番一部） 会員：1, 950世帯 ※住民基本台帳登録 4, 726世帯、9, 230人</p>	<p>【馬事公苑前ハイム管理組合】 区域：上用賀2丁目5番 会員：240世帯 ※住民基本台帳登録 240世帯、515人</p>

（注） 住民基本台帳登録数値は、平成28年4月1日現在

4.2 防災資源

防災対策・備蓄状況等の把握（調査）を実施した。以下、「消火資機材」「救出・救助活動資機材の配備」「食糧・生活必需品等の備蓄」について整理している。

(1) 消火資機材

(平成27年12月1日現在)

町会名	名称	台数	設置場所
玉川町会	D型ポンプ	2基	教育相談室裏
	C型ポンプ	1基	玉川3-2 1-3 緑道側
瀬田町会	スタンドパイプ	1基	防災倉庫
	D型ポンプ	1基	
用賀南町会	スタンドパイプ	1基	玉川台東公園内倉庫
	D型ポンプ	1基	町会倉庫(用賀2-25)
用賀町会	スタンドパイプ	1基	町会C倉庫
	D型ポンプ	1基	
	消火器	1基	町会B倉庫
上用賀町会	スタンドパイプ	1基	用賀中学校内町会倉庫
	D型ポンプ	2基	用賀中学校内町会倉庫 用賀公園内町会倉庫
馬事公苑前ハイム 管理組合	消火器	各階1本	各階

(2) 救出・救助活動資機材の配備

(平成27年12月1日現在)

町会名	名称	個数	保管場所
玉川町会	リヤカー	1台	
	はしご	1脚	
	脚立	1脚	
	担架	1個	
	救急セット	1セット	
	ヘルメット	50個	
	救助工具セット	1セット	
瀬田町会	リヤカー	1台	町会事務所防災倉庫
	救急セット	2セット	
	ヘルメット	10個	
	救助工具セット	1セット	
用賀南町会	救急セット	1セット	
用賀町会	リヤカー	1台	
	脚立	1脚	

町会名	名称	個数	保管場所
用賀町会	担架	2個	
	救急セット	2セット	
	ヘルメット	15個	
	救助工具セット	1セット	
	バール	1本	
	スコップ	2本	
	手おの	2本	
	のこぎり	1本	
	ジャッキ	1個	
	両口ハンマー	1本	
	エンジン式チェーンソー	1台	
上用賀町会	リヤカー	2台	用賀中内町会倉庫 用賀公園内町会倉庫
	ヘルメット	100個	
	救助工具セット	2セット	
馬事公苑前ハイム 管理組合	担架	4個	ハイム倉庫内、管理人 室、集会室押入れ
	救急セット	1セット	
	ヘルメット	6個	
	バール	2本	
	スコップ	1本	
	のこぎり	1本	
	ジャッキ	1個	
	両口ハンマー	2本	

(3) 食糧・生活必需品等の備蓄

(平成27年12月1日現在)

町会名	名称	個数	保管場所・配布先
瀬田町会	飲料水	250L	町会事務所
	非常用トイレ	300枚	
用賀南町会	ビスケット等	50食	町会倉庫
用賀町会	非常用トイレ	50枚	
	照明	3個	
	発電機	1基	
上用賀町会	ビスケット等	400食	
	飲料水	96L	
	発電機	2基	
馬事公苑前ハイム 管理組合	ビスケット等	18L缶×8個	ハイム倉庫内、管理人 室、集会室押入れ
	飲料水	996L	

町会名	名称	個数	保管場所・配布先
馬事公苑前ハイム 管理組合	缶詰類	108缶	
	レトルト食品	500食	
	非常用トイレ	250個	
	番線カッター	1本	